

第5次六戸町総合振興計画策定のための
フォーカスグループインタビュー
(専門分野懇談会) の記録

令和2年2月

六 戸 町

目 次

I	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査方法・調査内容等	1
	(3) 調査対象団体	2
II	要望・提案等のとりまとめ	3
III	各団体の現状と課題、要望・提案等	6
1.	保健・医療・福祉分野グループ	6
	(1) 社会福祉法人六戸町社会福祉協議会	6
	(2) 六戸町国民健康保険診療所医療関係者	7
	(3) 六戸町学校保健会	8
	(4) 六戸町民生委員児童委員会	9
	(5) 六戸町国民健康保険運営協議会	10
	(6) 六戸町介護保険運営協議会	10
	(7) 六戸町食生活改善推進員会	11
2.	産業分野グループ	12
	(1) 六戸町農業振興対策協議会	12
	(2) 六戸町畜産振興協議会	13
	(3) 金矢工業団地連絡協議会	14
	(4) おいらせ農業協同組合青年部六戸地区	15
	(5) 六戸町商工会	15
	(6) 六戸町商工会青年部	17
	(7) 六戸町農業委員会	18
3.	地域振興分野グループ	19
	(1) メイプルタウンフェスタ実行委員会	19
	(2) 六興祭実行委員会	19
	(3) サマーフェスティバル実行委員会	20
	(4) 六戸ブランド研究会	21
4.	生活環境・基盤分野グループ	23
	(1) 六戸町消防団	23
	(2) 六戸町防犯協会	23

(3) 六戸町交通安全協会	24
(4) 人権擁護委員	25
(5) 六戸町日赤奉仕団	26
5. 教育・文化分野グループ	27
(1) 六戸町文化協会	27
(2) 六戸町教育委員会	28
(3) 六戸町文化財審議会	28
(4) 六戸町スポーツ推進委員協議会	29
(5) 六戸町社会教育委員会	29
(6) 六戸町子ども会育成連絡協議会	30

I 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、第5次六戸町総合振興計画（令和3年度～令和12年度）の策定にあたって、町民参画の一環として、町内で活動する各種団体等の現状や課題、今後のまちづくりへの要望や提案等を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査方法・調査内容等

項目	内容
調査対象	町内で活動する各種団体等
調査方法	調査票（事前記入用紙）の配布・回収と「フォーカスグループインタビュー（専門分野懇談会）」の実施
調査時期	令和元年11月21日（木）・11月22日（金）
調査内容	<ul style="list-style-type: none">① 団体等の現状と課題 [団体等の現在の活動状況と抱えている課題、そのために行政に望むことなど]② 今後のまちづくりへの要望・提案（専門の分野に関して） [団体等の関連する専門分野に関し、現在の六戸町には何が不足しているか、何をもっと伸ばしていけばよいか、そのための具体的な要望や提案など]③ 今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から） [専門分野を超え、町全体の視点で、現在の六戸町には何が不足しているか、何をもっと伸ばしていけばよいか、そのための具体的な要望・提案など]

「フォーカスグループインタビュー」とは、従来型の座談会や懇談会、ワークショップの反省の視点に立ち（ざっくりばらんな具体的な意見を発言しにくい、作業ばかりで言いたいことが言えない、結果・成果が反映されにくい等）、本音の意見を発言しやすい雰囲気の中で、専門分野ごとの人的交流を行いながら、具体的な意見を集約できるよう、5～6人を1つの単位とし、テーマごとに焦点（フォーカス）をしぼったインタビューを効果的に行う手法。

(3) 調査対象団体

グループ	日時	団体名
1. 保健・医療・福祉分野グループ	11月21日(木) 10:30~12:00	社会福祉法人六戸町社会福祉協議会
		六戸町国民健康保険診療所医療関係者
		六戸町学校保健会
		六戸町民生委員児童委員会
		六戸町国民健康保険運営協議会
		六戸町介護保険運営協議会
		六戸町食生活改善推進委員会
2. 産業分野グループ	11月21日(木) 13:30~15:00	六戸町農業振興対策協議会
		六戸町畜産振興協議会
		金矢工業団地連絡協議会
		おいらせ農業協同組合青年部六戸地区
		六戸町商工会
		六戸町商工会青年部
		六戸町農業委員会
3. 地域振興分野グループ	11月21日(木) 15:30~17:00	メイプルタウンフェスタ実行委員会
		六興祭実行委員会
		サマーフェスティバル実行委員会
		六戸ブランド研究会
4. 生活環境・基盤分野グループ	11月22日(金) 10:00~11:30	六戸町消防団
		六戸町防犯協会
		六戸町交通安全協会
		人権擁護委員
		六戸町日赤奉仕団
5. 教育・文化分野グループ	11月22日(金) 13:30~15:00	六戸町文化協会
		六戸町教育委員会
		六戸町文化財審議会
		六戸町スポーツ推進委員協議会
		六戸町社会教育委員会
		六戸町子ども会育成連絡協議会

Ⅱ 要望・提案等のとりまとめ

各団体の現状と課題、要望・提案等（Ⅲ参照）の中から、今後のまちづくりへの主要な要望・提案等を抜粋・要約し、分野ごとに整理すると、以下のとおりです（団体への財政的支援の拡大要望、感想や否定的意見、抽象的要望等は除いています）。

分 野	主要な要望・提案等
1. 保健・医療・福祉分野	<ul style="list-style-type: none"> ◆だれもが気軽に立ち寄れる相談の場、集える場の確保。 ◆小・中学生の医療費補助の継続。 ◆高齢者の集まる場所の設置、体操や高齢者向け教室等の開催。 ◆70歳以上及び運転免許返納者への町民バス無料利用券の交付や体育館の器具使用の無料化。 ◆ウォーキング等の健康づくりのための官庁街通りへのマーク（ここまで100メートル・200メートル等の表示）の設置。 ◆運転免許返納者に対する交通費等援助の実施。
2. 生活環境分野	<ul style="list-style-type: none"> ◆気軽に住民が利用できる公園の設置。 ◆すべての民生委員児童委員による防災士の資格取得。 ◆館野公園の遊具の設置。 ◆館野公園の充実。 ◆消防団員の確保に関する協力。 ◆災害時要援護者の支援対策の充実。 ◆防犯指導隊員の表彰。 ◆災害時の活動基準の明確化。食品提供範囲の検討。
3. 産業分野	<ul style="list-style-type: none"> ◆町の農畜産物を組み合わせた六戸ブランド料理の開発。 ◆町の農畜産物の魅力を発信する方法の再検討。 ◆首都圏等の若者が農作業体験に来るような事業の実施。 ◆畜産業の設備投資への協力。 ◆新規就農者（畜産業）に対する簡易牛舎の補助等の実施。 ◆先進地からの繁殖雌導入等への支援。 ◆町内企業に対する求人関係の支援。 ◆企業の社員が定住するための住宅等の支援。 ◆「シャモロック」のアピールやイベント開催による集客。

分 野	主要な要望・提案等
	<ul style="list-style-type: none"> ◆規模拡大したい人に簡単に畑を紹介できる取り組み。 ◆農機具購入に対する助成の実施。 ◆野菜の直売体制・ネット販売体制の充実。 ◆道の駅の充実。 ◆「小規模企業振興条例」の制定と施策の推進。 ◆商店街の活性化に向けた、商店街・商工会青年部・町等が一体となった団体の結成。 ◆新規就農者への町独自の補助の実施。 ◆イベントにかかわるボランティアの募集強化。 ◆舘野公園の桜まつりの充実。 ◆六戸秋まつりの充実。 ◆六戸町のまつり・イベントの町内外への情報発信の充実。 ◆六戸秋まつりのお通りの時間帯の変更（昼間に戻す）。 ◆太鼓（打楽器）フェスティバルの開催。 ◆道の駅の拡大。 ◆道の駅の活用。 ◆道の駅の増築。
4. 教育・文化分野	<ul style="list-style-type: none"> ◆趣味活動等ができる地区の公民館の設置。 ◆各年代の人が一堂に会せるような場所の確保。 ◆適応指導教室の充実、教育相談員学校配置・派遣の充実。 ◆学校の学習指導に係る環境整備（大型プリンターやI C T機器）。 ◆eスポーツの普及に伴う健康面の啓発活動の推進。 ◆スポーツイベントの実施。 ◆旧照陽小学校で行われていた「版画」等の常設展示。 ◆少年の犯罪防止と人の命の大切さに関する生徒指導の推進。 ◆技術を持ったシニアの文化・学習の指導者としての活用。 ◆英語教育の充実。 ◆郷土資料館の維持。 ◆学校体育館の開放と旧勤労者体育センターの利用（スポーツの場の確保）。 ◆人材バンク（文化・学習の指導者の登録制度）の活用。 ◆子ども等がいつでも集まることができる居場所の確保。 ◆人材育成のための社会教育・スポーツの講座等の開催。

分 野	主要な要望・提案等
5. 生活基盤分野	<ul style="list-style-type: none"> ◆移住・定住に関する政策の充実。 ◆結婚を支援する取り組みの強化。 ◆役場周辺地域（町の中心部）における住宅（賃貸物件等）の確保。 ◆小学校跡地・町営住宅跡地の再利用。 ◆高齢者の運転免許返納の呼びかけ。 ◆道路標識の全面見直し。 ◆信号機の感応式への変更。 ◆道路側溝の清掃。 ◆空き家の活用（いつでも使える地域サロンなど）。
6. 町民参画・行財政分野 （まちづくり全体にかかる内容含む）	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもを安心して育てられる環境など特徴を伸ばすまちづくり。 ◆なんでも役所に頼るのではなく、町民一人ひとりが今後のまちづくりを考えるような啓発の推進。 ◆時代に合わせた新しい手段による町の積極的な情報発信。 ◆町の魅力発信の継続・充実。 ◆50年後・100年後見据えた、町が5ブロック程度になるようなコンパクトなまちづくり。 ◆地域おこし協力隊の導入・活用。 ◆今後のまちづくりを担う新たな人材の育成 ◆男女共同参画の取り組み。 ◆「自分が町長だったら」の論文・作文の募集。 ◆六戸なら〇〇というものの発掘。 ◆安全で住みやすく美しい町であることの全国へのアピール。 ◆町内会の統廃合。

Ⅲ 各団体の現状と課題、要望・提案等

1. 保健・医療・福祉分野グループ

(1) 社会福祉法人六戸町社会福祉協議会

【団体等の現状と課題】

- 基本理念「みんなで支え合い すべての人が 安心して暮らせる町づくり」

(現状)

- 地域社会の現状

六戸町も少子化・超高齢社会、核家族化等により地域社会の様相は大きく変容し社会的孤立や経済的困窮等の問題、虐待や権利侵害の問題等地域における生活・福祉課題は複雑化・多様化している。特に高齢者のみの世帯が700世帯にのぼる。ひきこもり対策も必要となってくる。

- 六戸町社会福祉協議会組織としての現状（地域づくり関係）

福祉総合相談による住民への福祉・生活課題の対応、高齢者の生きがいや健康づくり、生活支援体制整備事業（介護保険要支援者への町独自の支援）による地域での互助・共助活動の推進、ふれあいいきいきサロン事業の実施（13地区）及び見守りサポーター（102名）並びに福祉安心電話協力員（120名）等の協力により地域づくりや人材育成を進め、地域の支え合い活動のさらなる充実を目指している。

(課題)

- 当事者団体、ボランティア等参加者の減少。
- ひきこもりや不就労者等生活困窮者への対応。
- 本会の自主財源である会費や赤い羽根共同募金が年々減少している（事業費に苦慮している）。
- 市町村社会福祉協議会が実施する業務が増加傾向にあるが職員体制が対応できていない。
- 「地域共生社会」の実現が求められる。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 六戸町社会福祉協議会は、社会福祉法にもあるように地域福祉を推進する団体として明記され、あらゆる相談に対応する福祉総合相談や在宅福祉サービスを提供するだけでなく、人と人とのつながりや相互扶助（支え合い、助け合い等）の仕組みづくり、高齢者のみの世帯の安否確認、住民の自発的活動としてのボランティア活動を推進し、だれもが安心して暮らせる

地域社会の構築を目指している。

- 生活支援体制整備事業による高齢者の介護予防や生きがいづくり、支え合い活動などが増加している。そのほか、生活上や福祉的な複雑かつ重複した課題・問題を抱えている世帯も少なくなく、本会や役場福祉課、地域包括支援センター棟で相談・支援にあたる専門職員が不足しているように感じる。
- 町内では、高齢者に限らず、だれもが集える場所が不足しているため、高齢者の行き場がなく、福祉施設利用者が増加するのではないかと感じる。できれば、歩いて行けるような場所がよいと思われる。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 気軽に住民が利用できる公園の設置（体操やウォーキング等もできるような場所）。
- 趣味活動等ができる地区の公民館の設置及びいつでも利用できるために管理者が常駐している施設。

（２）六戸町国民健康保険診療所医療関係者

【団体等の現状と課題】

- 高齢化の急速な進行とともに医療ニーズはますます高度化・専門化していくことが予想され、医師の確保とともに町内外の医療機関との連携による地域医療体制の充実を図る必要がある。
- 医師を確保できず平成28年10月有床19床の診療所になり現在に至っている。病床があるので入院も稼働すればと考えるが、実際医師2名で隔日の当直で夜間も診察となると年齢的にも負担が大きいと考える。診療所になってからも、医師確保に向けて努力はしているが、現状2名のままである。
- 診療所になってからも町民の皆さんに安心な医療が提供できるように、規模は縮小したが、病院の時から検査機材は充実しているため病気の早期発見に努め、病気が重症化しないように治療し、それでも入院等が必要な疾患は、町外の専門医へ早めに紹介することが、かかりつけ医の役目だと思っている。また健康診断等もその日に実施するなど、急な依頼にも対応している。2人の医師でできること、少しずつ広げ週1回であるが、夕暮れ診療実施、町内の学校医、就学前健診、町内の健診の受け入れ等実施。健康診断に関しては検査項目にもよるが、即日作成しお渡ししている。外来業務では、落ち着いた患者様に対しては2か月処方し、受診しやすくしている。また訪問診療も以前より実施している。訪問看護は診療所の医師が主治医でなければ利用できないので、利用者様に変動がある。

- 課題は多々あるが、現在の業務を維持・拡大しながら、町民の皆様にご利用しやすく、家庭医のような役目ができるような診療所を目指していきたい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 普段診療所で 24 時間の訪問看護の関係で、1 人夜勤体制をとっている。診療所に移行する際、町民に周知するまで住民からの相談等を受けることにした。いまだに夜間の診療を受けていると思っている方が多い。状態をお聞きして救急へ誘導したり、不安を訴える方の声に耳を傾けてアドバイスしたりしている。
- 日々の業務や相談等で、気軽に相談できる場所が少ないように感じている。日中気軽に立ち寄れる、町の保健室等があればと考える。包括支援センターや社会福祉協議会、診療所でも相談等を受けているが、敷居が高いと感じているようだ。包括支援センターの方で、認知症カフェを立ち上げる予定と聞いているが、認知症の方だけでなく元気なお年寄りもだれもが気軽に立ち寄れる相談の場、集える場の確保を望む。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 子育て支援や高齢者対策など、他の町村に負けないぐらい六戸町も充実していると思うが、各年代の人が一堂に会せるような場所があればよいと思う。夏は涼しく冬は暖かくのんびりできる場所、子どもがお金をかけず過ごせたり、六戸町の歴史がわかるようなブースを設けたり、一箇所にいるいろいろな機能を持たせたものがほしい。

（3）六戸町学校保健会

【団体等の現状と課題】

（現状）

- 目的：学校保健の振興、地域社会の保健思想の発展。
- 組織：学校医、学校歯科医、学校薬剤師、小・中学校、役場福祉課、P T A、幼稚園・保育園代表、教育委員会代表（20 名～30 名で構成）
- 活動：総会（5 月）、学校保健推進会議（12 月）、役員会（3 月）の年 3 回の会議を開催。
 - ：養護教諭部会（年 6 回）、保健主事部会（年 3 回）。
 - ：会報の発行（年 3 回）、紀要の発行（年 1 回）。
 - ：実技研修（A E D）、町学校保健研究大会（連合 P T A と合同で 11 月）。
 - ：就学時健診の協力。

(課題)

- 児童・生徒の健康課題

:ゲームに費やす時間、体力不足・運動不足、肥満傾向、睡眠不足。

- 不登校への対応 (いじめも含めた心の健康課題)

(行政に望むこと)

- 乳幼児からの保護者への啓発活動 (メディアの利用など)。
- 適応指導教室 (今年度開設) の充実、教育相談員学校配置・派遣の充実 (常駐を望む)。

【今後のまちづくりへの要望・提案 (専門分野に関して)】

- 小・中学生の医療費補助の継続。
- 学校の学習指導 (教科の授業) に係る教員の準備等の負担軽減のための環境整備 (大型プリンターや I C T 機器)。学校保健教育充実へつなげる。
- e スポーツの普及に伴う健康面の啓発活動 (地域全体で)。
- スポーツイベントの実施 (小・中学生のスポーツや運動への関心を高める。スポーツ好きの子どもを増やしたい)。

【今後のまちづくりへの要望・提案 (町全体の視点から)】

- 六戸町は 30 代の女性の割合が高く、深刻な人口現にはならないと聞いた。六戸町は子どもを安心して育てられる環境である。このような他の市町村に比べて優れている特徴を伸ばしていくことが必要。

(4) 六戸町民生委員児童委員会

【団体等の現状と課題】

- 民生委員児童委員は現在 29 名となっており、うち 2 名が主任児童委員である。
- 民生委員児童委員に関するアンケート結果によると、活動内容について「知っている」という人が 8%、「少し知っている」という人が 23%、「名前は聞いたことがある」という人が 38%、「まったく知らない」という人が 30%となっており、認知度はかなり低い。
- 住民に頼りにされているわりには、知られていないのが実態である。
- 60 代・70 代の委員が多く、ほとんどの人が現役で仕事をしている。あまり役割を多くしないほしい。

【今後のまちづくりへの要望・提案 (専門の分野に関して)】

- 「見守りサポーター」は非常によい制度である。高齢者にとって心強い。

非常に助かっている。ただし、高齢者はおしゃべりしたい人が多く、時間を取られる傾向にある。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- すべての民生委員児童委員が防災士の資格を取ったらどうか。

（５）六戸町国民健康保険運営協議会

【団体等の現状と課題】

- 一般被保険者 2 名、町内医師 2 名、町議会議員 2 名の計 6 名の構成となっている。
- 町国保運営の実施状況について、町より報告を受け、必要に応じて答申を行っている（年 2 回～ 4 回程度協議）。
- 平成 30 年度は法定外の繰入金がなく特別会計及び国保基金で運営することができている。
- できることなら、保険税を安くしてほしい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門の分野に関して）】

- 国保会計の健全な運営を行いつつ、医療費抑制と関連がある予防事業、重複受診のチェックなどにさらに力を入れ、少しでも税の軽減に努めてほしい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- なんでも役所に頼るのではなく、町民一人ひとりが今後のまちづくりを考えるように啓発してはどうか。
- 本町は合併していないので全体的にマンパワーが足りない。役所も人員は限られている。近年は予測のつかない自然災害などが起きている。今までは役所に頼んでいたが、これからは一般住民ができることはやる必要がある。

（６）六戸町介護保険運営協議会

【団体等の現状と課題】

- 施設がたくさんあり、入りやすいので、介護保険も高くなる傾向にある。これからどうするかを話し合いたい。
- 高齢者の年齢別の人数を教えてください。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 高齢者の多くなる世の中、本町の高齢者の集まる場所を設けて、そこで週3回～4回程度、半日単位での体操や高齢者向け講和等の教室を開設してほしい（安否確認にもなる）。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 高齢者の商店街へのお出かけや買い物難民にならないように70歳以上及び運転免許返納者に対し、町民バス無料利用券の交付や体育館の器具使用の無料化を行ったらどうか。
- ウォーキング等の健康づくりのため、官庁街の通りに、ここからここまで100メートル、200メートルといったマークをつけたらどうか。
- 医師がもっと地域に出ていくような仕組みをつくりたい。

（7）六戸町食生活改善推進委員会

【団体等の現状と課題】

- 現在、推進員は28名となっており、かつては3倍いた頃もあった。町の健診後の朝食を提供しており、今年で10年になる。11日間で700食つくる。
- そのほか、各地区のサロンの食事、メイプルタウンフェスタのおやつ・みそ汁提供、また、1歳半～3歳のだし活、ラーメン店の塩分調査（短命県返上のため）、老人ホームの食事の手伝い等。
- 私達食生活改善推進委員会の望むことは調理室の床の部分（でこぼこ）を直していただきたい。また、水道の排水が悪い。私達食生活改善推進委員会は8市町村を回りながら研修会を行っているが、六戸の調理室にはよその地域の人は呼んで来られない。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 食生活改善推進員の人数を増やしてほしい。

2. 産業分野グループ

(1) 六戸町農業振興対策協議会

【団体等の現状と課題】

- 六戸町農業振興対策協議会は、農家の指導育成を主体とし、経営の合理化・生産力向上を図り、六戸町の農業振興と活性化を目的としている。
- 当協議会は、町長を会長に、県民局農業普及振興室・農業委員会・JAおいらせ・町内の各農業関係団体等の代表者で構成され、委員7名・幹事14名の計21名と事務局（産業課）で活動している。

(現在の活動状況)

- ① 営農講座の開催
 - ② 稲作現地指導及びにんにく栽培講習会の開催
 - ③ 農業店の開催
 - ④ 町の各種農業関連団体への活動助成 等
- ※①・②で、技術と生産力の向上を目指し、メイプルタウンフェスタでの「農業展」において、その成果を町内外の多くの方々に見ていただくことで、町の農業振興と活性化の一助を担えればと思っている。

(課題)

- ① 長年の問題である農業者の高齢化と担い手（後継者）不足
 - ② 加えて、近年は作業従事者の確保が難しい状況
- ※①・②とも、労働力が低下する大きな要因であり、このままだと農業経営がますます厳しくなっていくと思っている。
- ③ 町農畜産物の認知度不足（発信力不足）

【今後のまちづくりへの要望・提案（参加する分野に関して）】

- 上記の課題について、今後も町との連携・協議をさらに深め、各農業者や農協女性部、消費者等の意見（ニーズ）を幅広く吸い上げるような体制を構築していければと考えている。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 町の農畜産物（シャモロック、ナガイモ、ニンニクなど）を組み合わせた、ここに来なければ食べられないような六戸ブランド料理の開発（ろくのへブランド研究会等との協力）。
- 町の農畜産物（料理品・加工品含む）の魅力を発信する方法の再検討（SNSの活用、「六戸産」のパッケージの作成等）。
- 三沢市では、農泊アルバイト「おてつたび」（首都圏等の若者が農作業の

体験に来る) というものを行政もからんで行っている。六戸町もぜひこれを行うか、このような事業を起こしてほしい。

(2) 六戸町畜産振興協議会

【団体等の現状と課題】

- 本協議会は、六戸町の牛馬関係団体、すなわち、六戸町牧野畜産農業協同組合、六戸町産馬育成振興会、六戸町黒毛和種改良組合で構成されたものである。その後平成30年からは、シャモロック生産組合が参加し、4団体が所属している。
- 上記の団体の役割は、黒毛改良組合員が飼養している牛を、牧野組合が夏期間放牧飼養管理し、産馬振興会では冬期間の越冬飼料として乾草の調製配布を業務としており、一団体特に黒毛和種改良組合員及び飼養牛が減少することになれば、トライアングル構造が崩れてこの産業が崩壊することとなる。
- 牧野組合では、黒毛飼養農家の減少に伴い、放牧頭数の減少、固定資産税の悩み、草地の老朽化対策の現状及び課題がある。
- 産馬振興会では、会員の高齢化、乾草調製等の機械の老朽化の現状及び課題がある。
- 黒毛改良組合では、高齢化に伴い廃業する一方で、新規就農者がいないため頭数の減少及び子牛市場価格変動の不安がある。
- 設備投資に経費がかかるので協力してほしい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 本協議会の要である、黒毛和種飼養に関して、新規に就農できるような対策が必要かなと日頃考えている。色々な場面で町内の方々と肉用牛について話をする機会がある。
- その場面では、施設面すなわち牛舎関係のウェイトが大きいように感じられる。そこで、町の対策として新規就農者に簡易牛舎（ハウス型）の補助を行い就農しやすくする方策をお願いしたい（年に1棟程度で1～2頭飼養可能牛舎）。
- 一方では既存飼養農家のモチベーションを高めるよう先進地からの繁殖雌導入等に予算措置等をお願いしたい。
- このことによって、牧野組合の農地が有効活用され、産馬振興会の粗飼料生産などトライアングル構造が保て、六戸町の肉用牛産業維持・発展が期待できる。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

（教育・文化について）

- 先日所用で旧照陽小学校を初めて訪れた。その昔？新聞等マスコミで報道されていた「版画」及び賞状等が寂しく置かれていた。当時の子ども達の栄誉がだれにも見られず、むなしくなった。当時頑張った子ども達も、いい大人というか、中年を過ぎているだろうか。各小学校が生徒数の減少で統合されたが、旧小学校はこのようなものがあるのではと思った。当時の子ども達（今ではいい大人）や町内外の方々にも見てもらえるよう、常設の展示を希望する。このことが、次世代の六戸町の人材育成にもつながるのではと考えている（町内でもこの版画のことを知らない方もいると思う）。常設展示は廃止後の六戸高校一部？や町の中心部がよいと思う。

（3）金矢工業団地連絡協議会

【団体等の現状と課題】

- 金矢工業団地連絡協議会は製造業6社で構成されている。
- 活動としては、工団連絡担当者会を年2回開催し、各社の近況やその他報告を含めた情報交換、また、町への要望などを話し合う機会としている。担当会で議論した内容や要望は、役場、産業課に相談させていただいている。
- 年2回六戸町長と工団連メンバーとの懇親会を開き、町政等の情報を得る機会となっている。その他委員会として、メイプルタウン実行委員会、まちづくり委員会、六戸町緑化推進委員、六戸町観光協会。
- 行政に望むこととして、役場ホームページでも案内していただいているが、求人関係の支援をお願いしたい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 理想としては、新しい企業が立地し雇用創出ができれば、ある意味活性化につながると思うが、現実には難しいと思う。
- 企業側が考えなければならないことは、雇用を維持していくための事業計画、経営拡大等。
- 町に望むことは、定住化する際の支援等（他市町村から来た社員が定住するための住宅の支援等）。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 特産品の「シャモロック」のアピールや、道の駅でのイベントの開催等により、他市町村から人が集まるようにしてはどうか。理想は群馬県の川場田園プラザ、テレビで見たが、特産品をうまく活用している。

(4) おいらせ農業協同組合青年部六戸地区

【団体等の現状と課題】

(活動状況)

- J Aまつり出店。
- メイプルタウンフェスタ出店。
- 食育（バケツ稲。小学5年生を対象に、バケツで米をつくる）。
- 他地域青年部との交流、イベント。
- 県、東北、交流会。
- 家族交流会（家族で一緒に遊びに行く）。
- 視察研修。

(課題)

- 部員が増加しないこと（現在、37～38名）。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 青年部世代の人が自分で畑を探すのが難しいので、町からの畑などの紹介してほしい（よい条件のところはすぐになくなる。規模拡大をしたい人にもっと簡単に紹介できるような取り組み）。
- 農機具購入時の助成金。
- 野菜直売所などの充実化、インターネットでの販売化。
- ちびっこベジタランドとうたっているならもっと農業分野に力を入れてほしい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 子どもを遊ばせることができる公園・遊具がない（小松ヶ丘にはあるが）。
館野公園に遊具がほしい。
- 道の駅について、町の顔なので、なんとか充実できないか。

(5) 六戸町商工会

【団体等の現状と課題】

- 六戸町商工会は商工会法により設立された特別認可法人である。
- 本町の多くは中小零細企業であり、それぞれの業界及び業種において、地域経済を支えながら、単に事業活動を行うだけでなく、「雇用の確保」、「文化の継承」、「地域コミュニティの形成」など様々な役割を果たしながら、地域社会に貢献するとともに、地域経済の発展、本町の発展に大きく寄与してきた。

- また今後、「会社や組織に属し一生暮らしていける」という生き方はなくなり、副業の考え方が広がることで、企業に雇用される以外で労働を行う、つまり、事業主として稼ぐことが現実的な手段として検討される時代がすぐそばまで近づいている。そういったときに、「税務」、「労務」、「法務」、「財務」、その他マーケティングを持つ商工会としての経営マネジメントが、日本社会を支える一つの社会基盤になるとも考えている。
- 課題とすれば、急速な少子高齢化の問題などの構造変化に直面しており、売上や事業者数の減少、経営層の高齢化の問題を抱えている。商工会員も減少してきており、10年後には相当減るだろうと思っている。
- 行政へ望むことは、商工会等と連携を密にし、町全体を雇用・就労環境の整った地域としてつくり上げていくことだと考えている。

【今後のまちづくりへの要望・提案（参加する分野に関して）】

- 本町には、商業活動における環境が整っていないことが、不足点であると考えている。昨今では、町外から流入する事業者が増加する傾向の中、地域経済とは関係なく利益のみ追及する事業者も増えており、それらとのシェアの奪い合いにより、地場産業が壊滅的な打撃を受け、倒産や廃業に追い込まれる事業者が後を絶たない状況にある。
- このことから、日本経済を支える小規模事業者の経営を「維持」・「継続」させることを目的に、国は「小規模企業振興基本法」を施行し、国、県、市町村、商工会等関係者相互の連携及び協力の責務を明確にするとともに、都道府県及び市町村に対して「小規模企業振興条例」を制定することで、行政の中で小規模企業振興を明確にすることを求めている。
- ついては、本町経済における中小企業及び小規模事業者の役割の重要性に鑑み、その振興について基本理念を定め、施策の総合的な推進を図り、かつ、町民生活の向上を図ることを目的として、条例の制定を要望する。
- 本町の北の方の人は三沢市とのつながりが強く三沢市へ行くことが多い。六戸の祭りやイベントに参加してもらい、犬落瀬に買い物に来てもらいたい。北の方が中心地になり、こりあたりはさびれる一方である。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 六戸町で移住や定住に関する政策をもっと活発にしたいと考えている。以前に（3年前まで）、当会の青年部で実施していた、カップリングパーティーでは、町民はもちろん町外からも参加してもらい、成婚されたケースも多々あり、反響のあった事業だと聞いている。現在も商工会事務所では開催予定を聞かれる方もいらっしゃるそうだ。
 そういった、需要のある事業、産業に行政が積極的に関与することもよい

と思う。その取り組みが、さらに新築補助の取り組みや、空き家の情報発信、コミュニティ活動の活性化につながり、本町の「ひとの流れ」を流動的にすると考えている。については、結婚を支援する取り組みの強化を要望する。

(6) 六戸町商工会青年部

【団体等の現状と課題】

- 商工会青年部では、町との連携を図りながら、町のイベント事業である春まつり、サマーフェスティバル、メイプルタウンフェスタに協力させていただいている。
- また、近年では町の活性化を目指し、東京や大阪など、先進地へ視察を行い、中小企業の独自の取り組みを視察し、その技術を取り入れることができないか協議しているところである。
- 課題としては、高齢化がある。青年部は、二代目・三代目などで構成されるが、年齢上限があり、満45歳までの在籍となる。しかし、事業者、後継者の高齢化に伴い、あと5年もすれば、部員数が現在の半数になる予想であることが最も解決しなければならない課題となる。人数が少ないと企画もできない。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 現在、先進地で商工会青年部にできることを協議している。平成30年に行った視察研修では、大阪の「文の里商店街」へ行った。そこでは、独自の自虐ポスターを作成し、ネットニュースなどに取り上げられ、繁盛した経緯があることを知った。六戸町でも、そういった広報を使い、商店街の活性化をしていきたいと考えている。しかし、一時的な活性化では意味がないので、持続的に行うために、町と連携し、商店街の方、商工会青年部、町が合わさった団体をつくり、協議できるようにしたいというのが提案である。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 高校生アンケートの結果を拝見して、将来六戸町に住みたい方の割合が低いことが改善点であると考え。商工会青年部では、青年団体であるため、若者が定住しやすいまちづくりを支えることをフォーカスしている。そのために、六戸町にいることのメリットを積極的に発信していくことが重要だと考える。いくら素晴らしい政策があっても、人の目にふれなければ意味がない。町の更新されていないツイッターを見ても、意味はない。時代に合わせた新しい情報公開手段はいくらでもあるため、活用してもよいのではないかと考える。

(7) 六戸町農業委員会

【団体等の現状と課題】

- 農業委員会は、土地の売り買い、貸し借りのあっせんや農業者保険などに関する仕事をしており、委員は現在 15 名である。
- 遊休農地・荒廃農地の解消が抱えている課題となっている。農地利用意向調査・農地パトロールを毎年実施し、農地中間管理機構へ情報提供や、非農地通知の発想を行っている。農家の高齢化に伴い、遊休農地・荒廃農地が今後増えていくと思われるので、担い手や若手農業者への集積率を上げていくことが必要である（条件のよいところはすでに利用されており、条件の悪いところが残っている状況である）。
- 昨今、人・農地プランの実質化や農地利用最適化推進委員の設置など、農協委員会の業務も多様化している中で、上記のような課題を解決していくためには、事務局職員の数が少ないのが現状である。専従で 2 名、事務局長は産業課長と兼任しており、実質、業務を遂行する人員は 2.5 名であるのが実情である。事務局職員数の増員を要望する。
- また、農業委員のなり手がいない。募集に協力してもらいたい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 農家の後継者不足が深刻な問題である。後継者がおらず、遊休農地となった農地を有効利用するため、親が農業を行っているが勤めていて農業を継ごうと思っている方、新規で農業を始めたいという方に対して、町独自での補助が必要ではないかと考える。
- 現在、国の事業で、農業次世代人材投資事業を行っているが、最長 2 年間の 1 年につき 150 万円の交付である。親が農家であれば支援を受けて農業を始めることは可能かもしれないが、まったくの新規で農業を始める場合、もう少し手厚い補助があれば農業人口の増加につながるのではないかと考える。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 役場周辺の地域（町の中心部）に、スーパーマーケットやドラッグストア、コンビニエンスストアなど点在しており、利便性の高い地域だと思うが、アパートや借家などの数が少なく、“住むところ”が整っていない。六戸町は近隣市町村への交通の便が非常によく、住みやすい場所だと思うので、賃貸物件が増えれば、住民が増えて、町の活性化につながると思う。

3. 地域振興分野グループ

(1) メイプルタウンフェスタ実行委員会

【団体等の現状と課題】

- メイプルタウンフェスタは、六戸町の一番のメインのイベントであり、官民一体となった行事である。年々来客数が増えてきて六戸町の大イベントとして定着していると思う。
- 課題は、ボランティアの人が少ないこと（町職員やシルバー人材センターに頼んでいるが、最低でも30人は必要。おいらせ町のまつりには多くのボランティアが集まるのに、六戸町は少ない）。六戸町の大イベントなので広報等で広くボランティアを募集する必要がある。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- イベント、館野公園の5月の桜まつりについて、町としてもっと力を入れ、色々な等を実施し、客を集める。せっかくの公園がだいなしでさみしい祭りである。館野公園は価値のある公園なので、有効活用を図るべきである。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 六戸秋まつりについて、中日の流し踊りのみではお客が少なく、仮装、文化芸能、流し踊り等を一緒に実施して盛り上げる必要がある。
- 館野公園を充実させたい（沼を生かして）。

(2) 六興祭実行委員会

【団体等の現状と課題】

- 南部祭りのあとに、六興祭、道の駅まつり、JAまつりの3つをあわせて官庁街で開催している。
- 道の駅とJAまつりを行うAコープとを結ぶ道路を歩行者天国にして、より一体感のあるイベントにすることにより、お互いの活性化と中心地の賑わいを創出している。イベントも定着し、人出も年々増加している。
- 課題としては、やはり予算。現在では協賛金も募ってはいるが、どうしても足りないので行政に頼らざるを得ない。今では欠かすことのできないイベントになってきたため、助成金の継続はお願いしたい（自主財源での実施が求められているが、ぎりぎりの状態で行っている）。
- あとはイベントに関わってくれる人の減少（実際、動いているのは農協青年部や商工会青年部。携わる人がだんだん少なくなっている）。特に20

代・30代の若い人が少ない。これからの六戸町を担う若い人に多く参加してもらえるような環境づくりを考えてはいるが、なかなか難しいのが現状。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 六戸町の魅力を発信し続けることが大事。それには人。人が大事。その人を応援できる行政側の力も大切。町を元気にしたいと思っている人達へ、助成金だけではなく、行政に携わる人達が、積極的に応援・協力してくれることが大事かと。イベントを継続できる環境をみんなで作ったり、みんなで支える。一人ひとりが六戸愛を行動で表せるようになればよい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- よりコンパクトな町を目指す。50年後・100年後を見据えての5年・10年の計画を立ててほしい。居住区の設定など。将来的には5ブロック（集落）程度になるようなまちづくりを。そこをバス等で結ばばよい。当面は10ブロック程度でもよいと思うが、そうなるように、居住区の推奨マップ（5段階とか）をつくり、川沿い、山あい等災害の危険があるところ、のちのち行政の行き届かないような奥地等に居住区を置かないような条例などをつくり、50年後・100年後にできるだけコンパクトな町を構築できるように。喫緊の諸問題もあるが、合わせて、そういう遠い将来に向けての話し合いもして、将来のまちづくりの指針も示せたらよいと思う。

（3）サマーフェスティバル実行委員会

【団体等の現状と課題】

- サマーフェスティバルは、商工会青年部が中心となって開催される夏まつりであり、ステージショーやビンゴ大会、町民のビアガーデンなどが行われている。
- 年々来客数も増えており、とても喜ばしいことである。今年は多少の雨がちらつく天気であったが、無事成功できたイベントだと思っている。
- 課題といえば、会場の近くに駐車場がないことと、酔っ払いに対する対応である。対応策とすれば、駐車場は、メイプルタウンフェスタのように、定期的にバスの運行をしてもらいたいことだと思っている。酔っ払い等に関しては、警備員の増強などがあげられる。
- また、やはりマンパワーが足りない。イベントの実行委員会はほぼ同じメンバーである。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 六戸町のまつりには、情報の発信が不足しているように感じる。今後 10 年・20 年と続ける予定のイベントでは、町内の方々はもちろんのこと、町外の方への広報も必要であると考えている。具体策とすれば、「ウェブメディア」だと思っている。SNSでは、広報としては、どんどん更新されていくものである性質上ふさわしくない。だが、メールマガジン等はその人へ確実に伝える手段として有用であると考えている。もちろん、迷惑メールとして処理される可能性もあるが、きちんと読んでくれる方にとっては、これ以上ない方法ではないかと思っている。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 六戸町には若者のための設備が不足しているように感じる。高校生アンケートの結果では約 50%の高校生が将来、六戸町には住みたくないと回答していることに対して、どのように行政がとらえているかは疑問である。特別な施設の建設を望んでいるわけではなく、六戸町に現在ある図書館、体育館等の利用を促進するだけでも、町への愛着が出てくると思う。促進方法であるが、ネットを活用するのも一つであると考えている。公共施設にフリー Wi-Fi を設置し、ホームページや SNS で宣伝してみるのもおもしろいと思っている。

（４）六戸ブランド研究会

【団体等の現状と課題】

- 六戸ブランド研究会は、6 年前に立ち上がった組織で、会員約 10 名と産業課職員で構成されている。

（現在の活動状況）

①ろくのへブランド推進事業

- ・開知小学校の PR 活動支援、大曲小学校プレシャモの PR 動画の作成委託。
- ・スターフェスティバル→お土産品及びオリジナルメニュー開発。

②六戸産品販売促進事業

- ・継続的な首都圏への売り込み、PR（シャモロック、野菜など）→グローバルフィッシュ食材食味交流会 in 東京。
- ・物産展等 PR 出店。JR 千葉駅での単独催事。

③ベジタランドろくのへ若手農業者支援事業

- ・青年就農者による農マルシェ（関東地区）出店。
- ・ちびっ子ベジタランド「さつきファーム」事業（園児による農作業体験）。

④その他

- ・青年シャモロック・ザ・プレミアム#6 試食会 道の駅。
- ・#6 丸焼き実演→八戸酒造・サマーフェスティバル、のぞみ祭り（小松ヶ丘）、六興祭
- ・町内飲食店による#6を楽しむ価値→もりとみで開催。

(課題)

今後の事業展開を進めていくうえでの人手不足。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 現在イベント等を行ううえで、人手不足が問題になる。スタッフに限らず、交通整理、駐車場など外部からの人も不足している。当然、予算的にも外部（警備保障等）にかかる経費等がかなり大きくなっている。担当課にかかる負担も大きく、今後もさらに大きくなると思われる。
- 地域おこし協力隊などが必要だと思う。地元も含めて、新たな人材を外部からも集めて、六戸町を盛り上げていければよいと思う。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 今後のまちづくりを担う新たな人材とその育成が必要であると思う。

4. 生活環境・基盤分野グループ

(1) 六戸町消防団

【団体等の現状と課題】

- どこでも同じだと思うが、団員のなり手が少ない。昔は地域づくりや祭りなどにおいて、青年団という存在があったが、今は消防団が支えになっている。みんなでよく考えて、仕事の場などでも入団をお願いしてもらいたい。
- 六戸町はよく、災害が少ないといわれるが、近年は想定外のことがよく起こる。避難場所が遠いという人もいるし、どこへ行ったらよいかわからないという人もいる。災害時要援護者の支援対策を横のつながりで充実してほしい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 緊急時の連絡体制について、幹部だけでなく団員全員に災害情報を携帯メールで一斉に伝達できるような体制をつくりたい。

(2) 六戸町防犯協会

【団体等の現状と課題】

- 現在、防犯指導隊員数は約20名となっており、町内のイベントや飲食店、コンビニの巡回などを行っているが、隊員になってくれる人がなかなかいない。
- 防犯指導隊員の処遇改善を図る一環として、長年報奨金年間1万円を1万5,000円に計上したく、総会にて承認され士気高揚につながった。
- 農作物盗難防止活動、不審者徘徊等、車による防犯パトロールも限界があるので、防災無線を活用し、啓発活動を実施したい所存である。
- 長年勤務された防犯指導隊員を町から表彰してもらいたい。
- 少年の犯罪防止と、人の命の大切さについて、教育委員会、各学校、PTA諸団体等と連携して生徒の指導にあたってもらいたい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 六戸秋まつりの、お通りの時間帯を、以前の昼間帯に戻してもらいたい。いくら照明を増大しても、観客席からは暗くて見えづらい。また、熊野神社の行列に参加協力いただいている七百中学校生徒の帰宅が遅くなる等、弊害が多い。八戸、十和田、三沢の秋まつりは、伝統を守り続け、夜間運行は別日に実施している。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 町所有の廃校小学校跡地の再利用。
- 町所有の町営住宅跡地の再利用。
- 町の介護の実態について。老々介護とか子どもが親の介護等。
- 県道米田～六戸線の道路劣化に伴い重車両の通貨の際の振動について。
町に相談したら県道なので県の担当といわれ、県民局道路維持課に平成27年に陳情書を提出した。その結果、平成30年に一定区間が舗装され残った名子木橋までは予算がないと担当者からの答弁であった。町として町内会と県との間に入って、協議できないもだろうか（毎日、毎日、振動に悩まされている）。

（3）六戸町交通安全協会

【団体等の現状と課題】

- 会員は現在約50名（ただし活動に出るのは10人程度）となっている。
- 年4回の県下一斉の安全週間に合わせて、会員一同で交通安全に対する啓発運動を行っている。
- 老人クラブの花見や忘年会等に合わせて、講話等で安全意識の高揚を高めることを目的としている。
- 母の会、交通指導隊、または代議員、理事等役員と協力して、行動をしている。例）レター作戦、ストップマーク設置、他団体との協力等。
- 役員会、街頭PR作戦等、色々交通安全の啓発運動をやっても出席率が低い。
- 高齢化により機動力が低い（若い人は仕事を持っているので出てこない。出てくるのは高齢者だけ）。
- 活動費をどうやって捻出するかに苦慮している。
- 折茂の信号機について、感応式でお願いしたのに違うものについて渋滞が発生している。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 高齢者の運転免許返納の呼びかけ。
- 運転免許返納者に対する交通費またはそれに代わる援助等（他市町村を参考に）。
- 道路標識の全面見直し（色々な道路標識があるが、倒れたり、腐ったり、傾いたりしている標識がたくさんある）。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 六戸町の北方の町内会からの要望だが、自衛隊のジェット機が部落上空を飛んでいるので、話もできない。
- 普通の信号機を感応式にしてもらいたい。
- 道路の側溝に汚泥がたまって、道路に水があふれて危険だ（冬はその水が凍る）。側溝清掃をお願いしたい。

（４）人権擁護委員

【団体等の現状と課題】

- 人権擁護委員は、現在５名となっている。

（活動状況）

- 人権啓発（小学校・中学校・高等学校で人権教室、六戸秋まつり・メイプルタウンフェスタ・社協まつりで活動）
- 人権相談（法務局十和田支局、六戸町老人福祉センターで相談員）
- 調査、救済（人権侵犯事件の調査、救済、事後の見守り活動）
- 十和田人権擁護委員協議会（子ども人権委員会、男女共同参画委員会、高齢者・障がい者委員会、常務委員会、事務局員に所属）

（抱えている課題）

- 六戸町の人権擁護委員の定数は５人で、任期３年、年齢制限 75 歳まで、後任が委嘱されるまでの間は継続となっている。健康等の事情により退任を申し出ても後任が委嘱されるまで退任ができない。

（行政に望むこと）

- 速やかに後任を推薦する。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 男女共同参画（女性のリーダーが少ない）
 - ・女性が各分野のトップとして参画する。
- 人権擁護委員を引き受ける人がいない。
 - ・（人権擁護委員法第 6 条 3 項より簡略）人権擁護委員の推薦・委嘱要件として、「市町村長は、住民で人格識見が高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解のある社会事業家、教育者、報道新聞の業務に携わるもの等及び弁護士会その他婦人、労働者、青年等の団体で人権擁護を目的とし、又はこれを支持する団体の構成員の中から推薦」とある。
 - ・人権擁護委員の引き受け手が多くなるように支援。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

（全般）

- 「自分が町長だったら」の作品（論文・作文）を募集する。小学生の部・中学生の部・高校生の部・一般の部等広く町の未来を募集する。

（地域振興）

- 太鼓（打楽器）フェスティバル
以前にまつり太鼓の競演があったが、全国・世界各地の太鼓（打楽器）奏者（アフリカ、南米、東南アジア等）に参加してもらい、運動公園でフェスティバルを開催。

（５）六戸町日赤奉仕団

【団体等の現状と課題】

- 現在 27 名（ほとんどが 70 歳以上）で、3つの小学校での炊き出しや社協まつり、メイプルタウンフェスタの支援などを行っている。

（現状）

- 若い人がいない。若い人が入ってくれない。
- 参加するのはいつも同じメンバーである。
- 要望していることが反映されていない（行政も真剣に考えてほしい）。

（課題）

- マンネリ化した対処が続いている。
- 奉仕団を知らない人が多いのでは。
- 行政と密接な対話が必要では。
- 行動基準が不明（いつ、どこで、何を）。

（行政に望むこと）

- 広報などで奉仕団の活動を紹介・PRしてほしい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 行政は奉仕団をどのように考えているか。
- イベント等終了後の反省会が必要では。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 災害が起きた時の活動基準をはっきり示してもらいたい。
- 寄付金の募集は大々的にPRする。
- 災害時の食品を提供する範囲を検討する。
- 赤十字社費と奉仕団の関係をわかっていない。
- 地域奉仕団との交流及び協力体制は？

5. 教育・文化分野グループ

(1) 六戸町文化協会

【団体等の現状と課題】

(活動状況)

- 参加団体 28、人数 290 人、全体的に減少している。1 人登録の団体が 3 団体、10 人以下の団体が 16 団体となっている。

(課題)

- 高齢化による会員減少（交通手段の問題・病気・死亡）。
- 新しい人が入会しない（年 1 回、一覧表を各戸配布しているが）。

(行政に望むこと)

- 各団体の大きなイベントや施設訪問を広報で取り上げられないか。
- お茶しながら活動できるような場所がほしい。
- 予約なしで使える場所があるとよい。
- 公民館が 500 円以下で使えるとよい。
- コピー機が使えるとよい。
- 町の宝である人材登録は活用されているのか？技術を持ったシニアの活用。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 技術を持ったシニアの活用。紙で呼びかけるだけではなく必要な人材は対話で（直接声をかける）。
- 六戸町に誇りを持てるよう、町をよく知ること。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- いうなれば原始のムラ。ムラ全体で子育てをする。ムラ全体で介護をする。
- 空き家の活用。いつでも使える地域サロンのような。
- 六戸なら〇〇。〇〇なら六戸。〇〇がない。発掘してほしい。
- 安全（災害がない）で住みやすく美しい町であることを全国にアピール。
- 道の駅をもっと広くしたらどうか。

(2) 六戸町教育委員会

【団体等の現状と課題】

- 月1回の定例会を開き、現在の状況、行事、問題点を共有している。小・中学生関係がどうしても中心になる。
- いじめ、不登校がなくなる。教育相談員を配置するなど対策をとっている。小さな芽のうちに摘む努力を関係者はしている、その都度すぐに対処していけばよいと思う。
- 大曲小学校区だけが子どもが増えて、他の学区の子どもが減少している。
- 六戸町教育大綱に沿って施策を推進している。
- 教育環境をもっとよくしてあげたいが予算のあることなので、少しずつでも改善していったほしい。

【今後のまちづくりへの要望・提案（参加する分野に関して）】

- 国でも力を入れているが、やはり英語力が必要だと思う。大人も含めて。高校、大学に進学したときに困らないようにしたい。それには英語に長けた教師が必要だと思う。そして子ども達にも折にふれてこれからの英語の必要性、楽しさを講演会などを通じて伝えていけたらと思う。ただ英語を教えるのではなく、なぜ必要なのか日常の中でも取り入れていけばと思う。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 六戸は通過点というイメージが強い。六戸町に関係するかどうかわからないが、農業はとても盛んだと思うので、「道の駅ろくのへ」をもっと活用できればと思う。道路からもっとよく見えるようにして、野菜などがあるということアピールしていけたらと思う。

(3) 六戸町文化財審議会

【団体等の現状と課題】

- 年に3回集まって活動している。このような審議会は、どこの市町村にもあるが、文化財包蔵地のパトロールの報告を受けたり、有形文化財の保存・活用に関する協議をしたりしている。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 本町には郷土資料館（民具が主体）があるが、町の中にこういうものがある町村はあまりないと思う。現状維持が望ましい。

(4) 六戸町スポーツ推進委員協議会

【団体等の現状と課題】

- 推進委員は現在8名（男女半々、60代が多い）であり、軽スポーツの普及や町の運動会の支援、研修会への参加をはじめ様々な活動を行っている。
- 本町の小学生は、スポーツをする子どもはするが、全体的にあまりしない傾向にある。競技スポーツでなくても、軽スポーツをしようと啓発している。町民も、スポーツ環境は整っているのに、あまりスポーツをしない。そこで、昨年度から、小学校において軽スポーツの出前講座を実施している。
- 推進委員は、町の人口規模からするとあと2～3名必要（計10名程度）だが、増員が望めない。
- 若い推進委員のなり手が無い。
- 町の望むことについては、総合体育館はなかなか空いていないので、学校施設を開放するほか、旧勤労者体育センターを使えるようにしてほしい（スポーツができる場所の確保）。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 健康、運動、体力づくりのため、待つのではなく、出前に行きたい。年配者に対しても新しいスポーツをアピールするため出張していきたい。午後6時以降であれば仕事が終わってからスタッフが駆けつける。総合型地域スポーツクラブの話もあるが、他の町の事例でよいと思うのは、空き家をクラブハウスにしていること。空き家をやすく貸してもよいという人がいれば、各団体で使えたり、気軽に集まれる場所にもなる。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 学校の体育館の開放。
- 旧勤労者体育センターの利用。
- 道の駅をもっと開放感のあるものに増築してはどうか。

(5) 六戸町社会教育委員会

【団体等の現状と課題】

- メンバーは5人、年3回（4月・10月・2月）活動。4～5年前に、かつてからあった公民館審議委員会と合併して社会教育委員会となった。
- 生涯学習課がいつの間にかなくなって社会教育課になった。近年、生涯学習という言葉が使われなくなってきているが、社会教育や生涯学習は、コミュニティづくりだと考えている。
- 現在、六戸町でがんばっているのが「夢追学習」という講座である。これ

はジャンルを問わないもので、根強い人気がある。自慢できる講座である。

- 社会教育団体の支援（人・金・物など）をしている。
- 学校開放については、以前は積極的に行っていたが、学校の方で管理の面を考慮して現在は行っていない。残念である。
- いつでもどこでも集まってお茶を飲めるところがない。あるとすれば図書館だが、なかなか使えない。
- 六戸町の文化財だった「旧渋沢邸」が東京都江東区に移築されることになり、残念である。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 人財バンクを活用すべきである。六戸町にも以前は名簿があったが、声がかからない。これが現状である。
- 六戸町には何もないというが、あるものを発見することが必要である。子どものふるさと学習を行っているが、大人もふるさと大切にす気持ちを持ち続けたい。

（6）六戸町子ども会育成連絡協議会

【団体等の現状と課題】

（活動の現状（年間行事））

- 総会（1回）、ジュニアリーダー育成（中学生・高校生）、ジュニアリーダー研修会（三沢市と合同で）、クリスマス会体験講座（3回）、小松ヶ丘サマーフェスティバルでの啓発活動、育成者研修会等。

（課題等）

- 単位子ども会（加入している単位子ども会は9つ）の六戸町子ども会育成連絡協議会への参加数の減少、会員の減少。
- 体験講座等町子連れ行事への参加者が少ない。部会活動優先のため。
- 子どもの一番多い、小松ヶ丘地区に子ども会がない。

（行政に望むこと）

- 町内会の統廃合。

【今後のまちづくりへの要望・提案（専門分野に関して）】

- 子どもや親子が集まる場所や公園等の不足。
- 子どもが遊べる場所、各種体験できる講座等。

【今後のまちづくりへの要望・提案（町全体の視点から）】

- 町内の地域に子ども等がいつでも集まることができる居場所。
- 人材育成のための社会教育・スポーツの講座等の開催。